



▲コース途中の足湯で温まる

▼12kmの「毛利の殿様コース」のスタート



長門の話題

Topics



スパトリアスロンin俵山 温泉とスポーツで健康に

11月24日(土)、俵山多目的交流広場をスタート、ゴールとして、「第1回長門白猿の湯スパトリアスロンin俵山」が開催されました。これは、新しいスポーツ「スパトリアスロン」を俵山で行うことで、観光客の誘致と健康増進を図ろうと開催されたものです。

競技は4つのコースが作られました。途中、足湯や俵山の名物猿まんじゅうを食べるアトラクションも用意され、参加者は楽しみながら走っていました。ゴール後は、地元の人たちによる手打ちそばやとり鍋、しし鍋などが用意され、参加者は冷えた体を温めていました。

千畳敷で山林火災防衛訓練 技術の向上と連携を強化

11月25日(日)、日置の千畳敷で山林火災防衛訓練が行われました。これは、消防本部と各消防団の防衛活動技術の向上と関係機関の連携強化を目的に実施されたものです。消防本部と日置、油谷、深川地区の消防団6部隊合わせて約120人が参加しました。

より出火したという想定で訓練が開始され、菅無田公園のため池から水を汲み上げ放水しました。隊員たちは急な上り坂をホースを抱えて駆け上がっていました。この日使われたホースは20mのもので、途中に6台のポンプをはさみ50本以上を延長しました。



▼予定より多くのホースを連結して対応



ながと観光フォーラム

長門の魅力を意識して

12月7日(金)、長門市物産観光センター会議室で、「ながと観光フォーラム」が開かれました。これは、県外で活躍している長門市出身の人から、長門市の観光振興についてアドバイスしてもらうために開催しているもので、この日は市内から約70人が参加

しました。

講師は、長門市正門市出身で東京在住の明治図書出版株式会社相談役の林五世氏です。講演で林氏は、「金子みすゞの他にもたくさん魅力のあるこの長門を、市民がもっと理解し、意識していく必要がある。」と話しました。

第32回宇津賀ふるさとまつり

地域を守り、楽しむ

11月25日(日)、旧文洋小学校を会場に、第32回宇津賀ふるさとまつりが開催されました。朝から地元の人や地元出身者が多く訪れました。のりのつかみ取りでは、のりをビニール袋につめ放題になっており、限界まで袋にのりを詰め込んでいました。

▼のりを詰めながらピース！



黄波戸温泉交流センターふれあいまつり

地元の作物で盛り上げる

12月2日(日)、黄波戸温泉交流センターで第8回こだわりの日置黄波戸温泉交流センターふれあいまつりが開催されました。

これは、黄波戸地区で採れた農水産物を販売してこの地域を盛り上げようと毎年開催されています。

まつり会場では、旬な野菜の入ったとん汁を味わうことのできるふれあいランチが人気を集めていました。また、新鮮な野菜や手作りのこんにやく、正月用の品を買い求める人や無料で配られたおしるこで体を温める人の姿が見られました。



れんこん生産者が店頭でPR

れんこんつて、おいしいよ

12月2日(日)、地元農産物の市内販売協力店で三隅れんこんの生産者が店頭でPRをしました。

店舗内では、三隅れんこん組合が野菜コーナーで新鮮な三隅れんこんのゴマ和えの試食会を行い、消費者に対して直接PRを行いました。



日置農業高校生徒がメイボ料理に挑戦

メイボを地元ブランドに



▲「魚をおろせないお母さんになりたくない」と言う生徒も

11月28日(水)、日置農業高校の3年生28人がメイボ(かわはぎ)の料理に挑戦しました。これは、長門料飲組合青年部がメイボを地元ブランドとして売り出そうと考え、高校生に楽しみながら食べてもらうことでそのおいしさを味わい、今後、長門の観光食ブ

ランドにしようとの狙いで企画されました。はじめは恐る恐るさわつていた生徒たちも、2匹目3匹目になると慣れた手つきで調理していました。参加した生徒たちは、メイボの煮付けとみそ汁、さしみを調理しました。

四白政策体験ツアー

先賢の知恵を学ぶ

12月2日(日)、明倫小学校を主会場に「四白政策体験ツアー」が開かれました。これは、村田清風が行った「四白政策」にちなんだ体験学習を児童が行うもので、長門市三隅青年団が主催しました。参加者は4つのグループに分かれて体験をしました。

▼四白とは、「米・紙・塩・ろう」



「家庭の日」フォトコンテスト・よいこと表彰

青少年の健全育成のために

12月1日(土)、教育委員会別館で、第5回「家庭の日」フォトコンテストと「よいこと表彰」の表彰式が行われました。これは、長門市青少年育成市民会議が、青少年の健全育成を目的に行っているものです。

「家庭の日」フォトコンテストには40点の応募があり、その中から浅田小学校3年の中野さくらさんが撮影した「もみまき」が選ばれました。よいこと表彰では油谷地区の有馬巧さん、深川小学校の山村昂央さん、末永杏奈さん、岩成陽人さん、岩成優希さんの4人が選ばれました。



第5回「家庭の日」フォトコンテスト
平成24年度「よいこと表彰」表彰式
～長門市青少年育成市民会議～

市長とグループトーク

熱心に地域づくりを議論

今年10月から始まった「市長とグループトーク」への申し込みがあり、12月13日(木)、俵山の里山ステーションで初めて開催されました。懇談会では、まちづくり・地域づくりを中心に活発な意見交換が行われ、有意義な時間を過ごしました。

▼熱心に参加者と地域づくりを語る



長

門の

人 People

今年は孫とともに

44回目の市民駅伝出場

いずみてるお
俵山走遊会 泉水輝夫さん

1月27日(日)に開催される第59回長門市市民駅伝大会に出場する泉水輝夫さんは、今大会最も出場回数が多い44回目。今年は孫である杉山恭介さんも小学生の部に出場する予定となっています。

2人は現在、一緒にジョギングをして汗を流し、長門市市民駅伝出場に備えています。



孫の杉山恭介さん(俵山小3年)と泉水さん(63歳)

やれるだけのことはやる

中学1年の校内マラソンで2位になったことで陸上部から誘いを受け入部。翌年に初出場して以来、ほぼ毎年この大会に参加してきました。

年明けの市民駅伝出場が毎年楽しみで、その日のために練習を2日以上休むこと無く現在まで走り続けています。

最近では、月間走行距離を決めて、長い距離をゆっくり一定のペースで走ることを意識してトレーニングに励んでいます。これが、長続きの秘訣だということです。

もっともっと走って

昨年から孫の恭介さんとペアで大会に出場するようになりました。自身の3人の子ともと走るといふ目標を達成したうえに孫と一緒に走る夢も叶え、喜びもひとしおです。

日々の努力を知っている恭介さんは「ずっと走り続けてほしい。見習って速くなりました。」と意気込んでいます。

人生に欠かせないもの

これからも孫と走れる喜びとおいしいお酒を飲める健康な身体に感謝しながら、身体が動く限り走り続けます。

そして、大会会場では、タスキをつなぎ終えたふたりの達成感に満ち溢れた笑顔を目にすることができるよう。

